



発行所 京都市宇治市宇治妙樂六〇ノ一
 宇治市役所
 編集兼発行人 京都市宇治市役所総務課 服部安太郎
 電話 宇治 四四〇番
 毎月一日発行 一部三円
 宇治市宇治妙樂
 印刷所 新進堂

水害去つて復旧すゝむ

復興宇治市の點描

九月二十五日思はざる水禍にあつてここに二ヶ月余、被害農地、道路、觀光施設の復旧は幾多の困難と溢路を切りひらいて今や急速に進みつつある。既報の通り宇治市は議会にはかつて五千五百七十余万円を追加し、その復旧施策はよし応急的ではあるとは言へない。さてこそ笠取、伊勢田、三軒家、重点着工をし、根本的には中央に出



先に、特別措置法の適用、宇治川水強化の陳情がつけられている。市初め、その衝にあたるものが万全の力を傾けることは勿論であるが、その復興が地につき、板につくのは、何と言つても市民個々人の力にまつ外はない。さてこそ笠取、伊勢田、三軒家、捨ててまで地区部落の復旧に力を協せて立ち上つたと聞く。

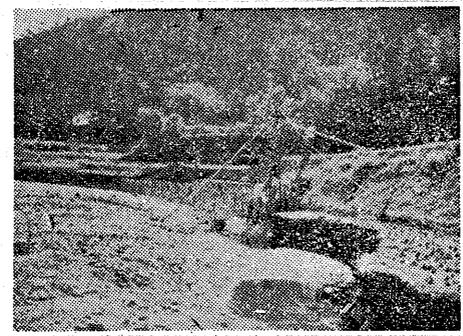
この尊い力の結集が宇治市を再建し、その心の集積が明るい宇治市を築くのである。

あえて水害第三集として復興点描をおおくりする所以である。

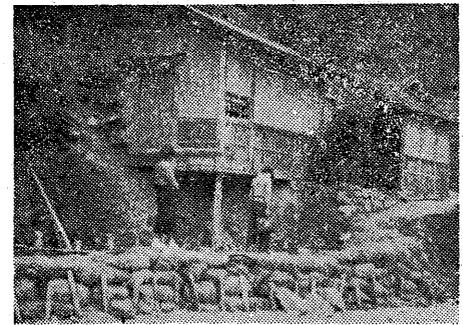
(休会明け市会で災害復興予算の可決 二・〇・三)

宇治市水害特報

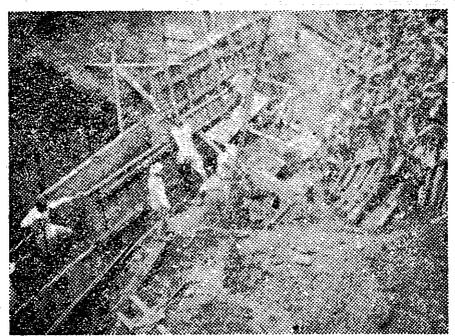
第三集 復興篇



笠取下庄の護岸潰壊個所の修理



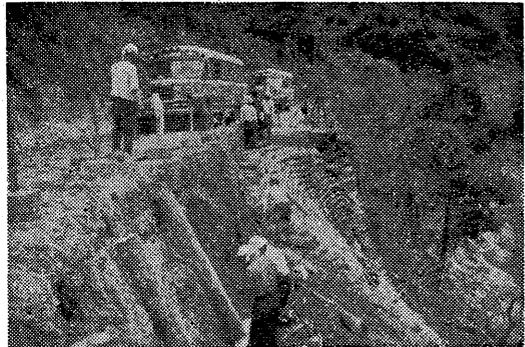
土のうで納屋と道をまもる



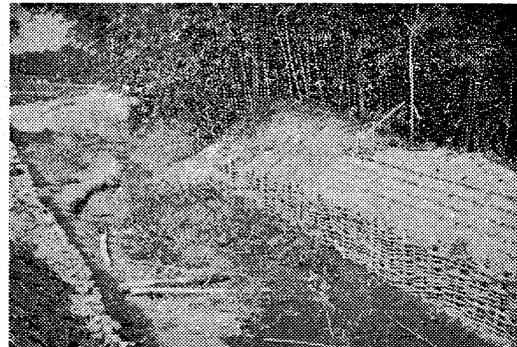
笠取川の復旧も地元の手で



笠取地区で活躍する地元の人達



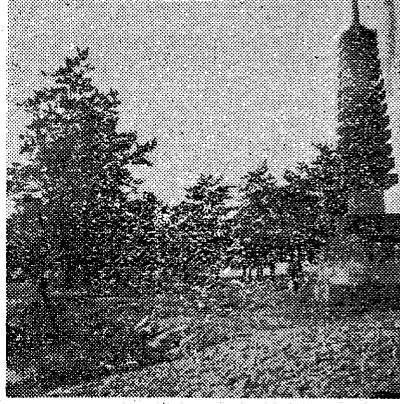
困難を極める宇治長野線府道の復旧工事



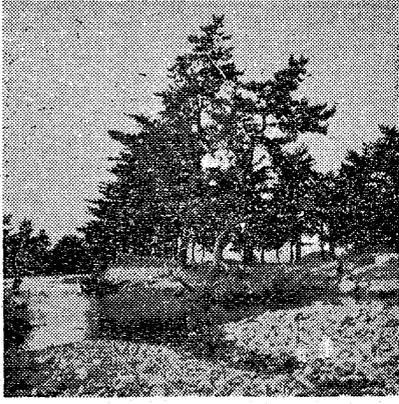
たたかい川のはらん個所の修理もできあがつた

十三号台風と 観光宇治の罹災

濁水去つた塔の島一帯、見るもあはれとはこのこと



わづかに残つた松林でも、このまゝでは枯死をまづばかり



十三層塔の基たんも外かわは洗いかえされてこの通り



美しい水と緑、文学と古美術とお茶の里、宇治は、去る九月二十五日の台風十三号で余りにも大きい打撃を蒙つた。

観光を重視する当市に於て、観光面の被害は有形、無形ひどい体当りを喰つたのである。公園を中心として宇治川筋の自然の景観は大半失われたのである。

黄から紅へと、秋の色彩も濃くなるにつけ、被害が身にしみるようであり、十一月に入つて観光客、修学旅行や秋を楽しむハイカー達は、相当数来るのであるが、水害と不景気で宇治の表情も暗い影がさし、観光業者も外観はさほどでもないが、聞く程に水禍の影響は大きいのである。

千年の美を育んできた宇治川上流には、天ヶ瀬吊橋、茶臼の淵、山吹の瀬等の名勝があるが一瞬濁流に呑まれたのである。観光産業道路、宇治長野線の山崩れ三十数ヶ所を始め、志津川道の流失となり、喜撰橋、橋橋の流失は塔の島との連絡を絶つたのである。

宇治を訪れる人を招く魅力は宇治川の清流であるが、右岸を散歩するもよく、左岸を行き、天ヶ瀬吊橋を渡り、宇治名物お伽電車にのり線の木々、紅葉を縫い延長約四キロ志津川より堰堤まで行く、このお伽電車と吊橋が台風十三号の犠牲になつたのである。

景観の中心点、塔の島、中の島は水害後約一ヶ月目に変わり果てた全貌を現はし、島を包んでいた松林の七割が流されたことは手痛い目にあつたものである。

史に有名な佐々木高綱、梶原景季による宇治川先陣

争いの碑も減水と共に巨体が横倒しのまま埋もれ、流失をまぬがれたのである。日本三名橋と謂はれた宇治橋には、流木が橋脚に引つかかり、見る影もなく、宇治の玄関口であるだけにこれが除去については第一に考え

間、建設省、京都府等関係者の視察もあり、種々意見の交換も出て、最後に宇治の将来を考へるとき、流失をのがれた橋脚二基を使用、巾員二米の応急橋は、今後の本復旧の目途も遠いので、この際思い切つて今まで通りの橋として架設することに一決、設計の変更となり、本秋の塔の島遊園使用を断念し、来春を期したのである。これは塔の島の整地の関係もあり、業者より種々の意見もあるが、やむをえないことである。

本年中には架設されるのである。それと同時に枯死寸前にある松林の保護の土置き作業も、京都府に於ては、大吉山観光道路開発の失業対策人夫をさき、塔の島にて作業を続けており、十一月十六日より、京都府のブルトーザー一臺の出動も可能となり、本格的な作業が出来るようになったのである。これで公園中心の大体の目鼻もついたのであり、橋橋の假橋も土木課にて設計されているのである。

宇治長野線の観光産業道路は工管所の機敏な復旧作業により、災害後一週間にして、観光バスの通行が可能となり、大津と宇治廻遊が出来て近畿各地より多くの観光客を迎へているのである。

宇治川右岸の被害は、山吹の名勝琴坂の土砂流失甚だしく、静かな興聖寺の禪堂も手痛い目にあつたのである。これは簡単な復旧作業であり、今は災害前と変らぬ復旧が出来て、興聖寺の紅葉や、発電所の見学等で賑つていて観光客に満足をあたえているのである。

八月まで宇治川の溪谷を走つていたお伽電車の被害もまた大きく、子供はもとより大人まで重心にかけられた愉快な電車は河

中に轉落、機関車二台が仲好く岩の上に枕を並べころがついていたなど笑えぬ風景であつた。これが再建について、地元の要望として京阪電車、関西電力近畿支社等に正式に文書を以て陳情

来年三月再開を目標に又日本一のお伽電車が清

宇治観光地帯の復興

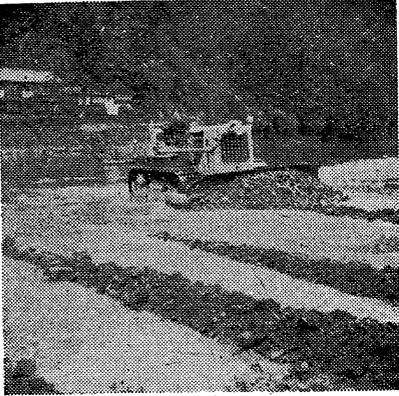
第十三号台風の 災禍を蒙つた

水魔去つて二ヶ月 復旧のあそを見る

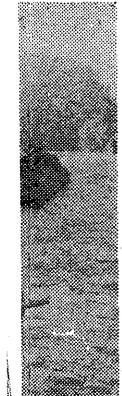
宇治観光の中心塔の島の修理、基礎測量はじまる



紅葉の山を背にブルトーザーの縦横の活躍

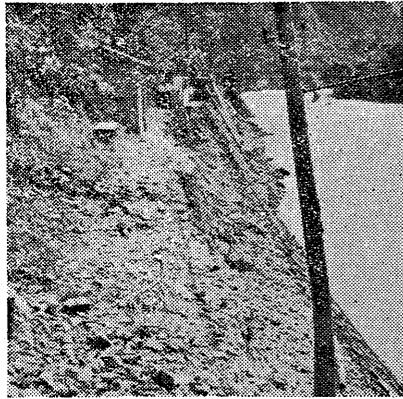


観光は道路から、何より復旧はいそがれる

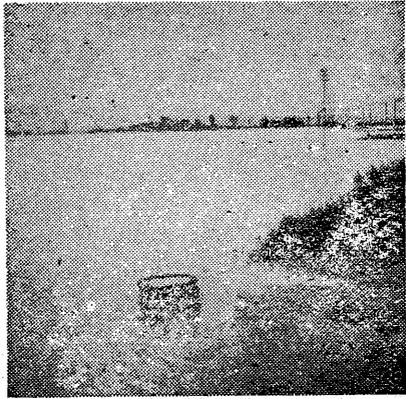




レールは寸断され、敷地は流失した
おとぎ電車



思うだに肌えに粟を生ずる巨椋池干
拓田の水ノ



たものであつて、市民の関心もここに集中されたのである。「三の間」から宇治川の水を汲み上げ、茶の湯に使つた所だと想像も出来ない。この流木の余去について、人力をもつていごんだのであるが歯が立たなかつた、失敗したのである。米駐留軍大久保キャンプの機械力の出動を要請した處、米軍の好意的な三回にわたる作業の結果、その大部分を除きあとは人夫を以つて十一月九日一と先づ清掃を終つたのである。昨今は、釣を楽しむ人々の姿が、朝もやの中に橋上に絵のように浮び、こゝだけは天下大平災害前の夢の浮橋に帰つたのである。

水没一ヶ月の塔の島の復旧は大変なことである。これが対策は水害対策本部に於ても、直ぐとり上げられた。喜撰橋の流失で島との交通が途絶したので、復旧の第一歩は喜撰橋の架橋にあり、早急に架橋の意見が纏り、宇治土木工管所、其他関係官廳と協議し、応急復旧によることに定つたのであるが、何分にも日本有数の急流であり、山間の土橋を架するようには行くものでない。調査に、設計に工管所の方に迷惑をかけ、應急復旧費府支辨、橋桁材料を市に於て調辨の上、十月三十日には一応假橋架設が出来ることになり市有林金井戸山より、桁材丸太五十尺のもの九本を切り出した。この長い木材を谷奥より搬出するのがまた困難なことで、天變手間をとつたのである。その

紅葉だより

暮れ果つる 秋のかたみに
しばし見ん 紅葉散らすな
三室戸の山
歌に名高い西行法師は、かつて三室戸の紅葉をたづねて散り行く紅葉と、人生の美しさを惜しみました。けふはまづ宇治の「紅葉だより」を申し上げましょう。

今年秋に入つてから、好天氣がつづき、時雨が来るのがおそかつた爲にか、紅葉も例年よりおくれたようでありましたが、宇治川兩岸の紅葉もやうやく色づき黄檗山、三室戸寺、興聖寺、平等院と、古い寺々のいらかを染めて

流を縫つて走るものを期待してゐるのである。市道志津川線の天ヶ瀬吊橋上流は、高さ十米延長七十米に及び崩壊流失、志津川発電所への重要産業道路でもあり又觀光道路でもあつて、早急復旧を要するので土木課に於て上陸式道路橋として再設計され風致一段と増すべく近く着工の運びとなつてゐる。

復旧は早期着手すべきであるが、觀光客誘致の宣傳もゆるがせに出来ないので、觀光課では近畿觀光バス會社及び案内所にパンフレット「宇治へ」を逸早く送附誘致に乗り出し、觀光業者も清掃に奉仕したのである。

其他觀光資源の穴埋めのため教團生長の家の別荘の解放を依頼、十一月末まで許可を得て、宇治を訪ねる人々に山上より宇治の秋色を觀賞して頂き大好評を得てゐるのである。大吉山觀光道路も一應完成に近づき、工事半ばで山へ登る人で賑つてゐるのである。

冬の中に細かい遊び器具、其他修繕を爲し来春はもつと觀光客の受入態勢と準備し、雨降つて地固るの例への如く、努力したいと念願してゐる次第である。

觀光関係復旧の概況を市民の皆々様に「市政だより」を借り報告すると共に、御理解支援、有意義な設備に関する意見等をお伺い致したいのであります。

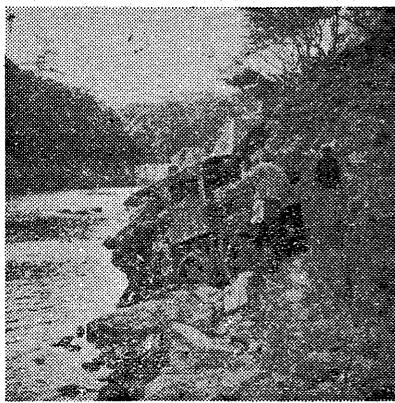
風情は花にもおとらず美しいものであります。塔の島から流れにさかのぼつて行けば、行く／＼山はせまり、峽谷深く澄んだ水に落とす紅葉のかけ、それこそ西行法師さながらに「紅葉散らすなしばし見ん」のおもむきでありましよう。

宇治川ラインでも、今全山三分が紅葉したと言つて居ります。見頃は中旬といつた所でしょう。ハイクの御案内、プランの御相談は、市の觀光課がいたしております。心安く御利用下さいませ。

(第三十一回宇治市政だより十一月十一日放送)



河の中に姿をあらはしたオトギ電車
を引き上げる



すでに水は引き、農夫はうら作の準備に汗を流す



放送日變更

毎水曜「ラジオ京都」による宇治市政だよりは
毎木曜日午後一時十五分に變更しました。

時の話題

お茶の宇治市には見逃せない
昔しあつた

興聖寺の茶亭について

好川海堂

觀光都市からいつても、又特に宇治茶の産地からしても、大に注意せねばならぬ、昔しあつた興聖寺の五つの茶亭のことは今日色々な角度から再認識する必要があるように思う。然るに一向に注意されてないことは遺憾至極だ。

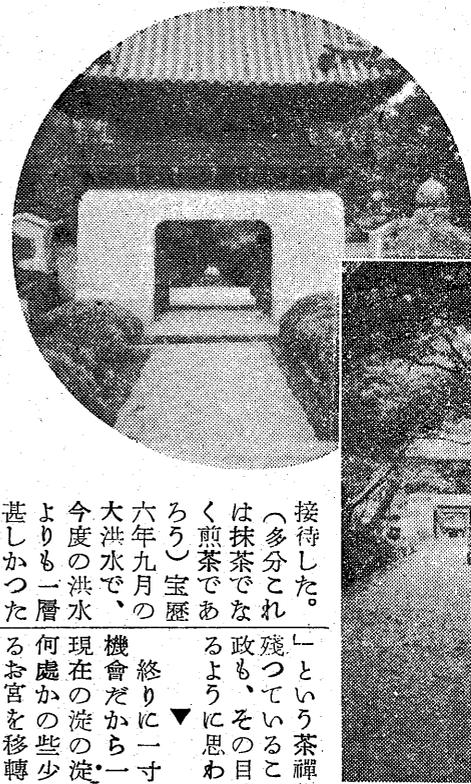
これについて注意の眼を開いた先覚者も満更ないわけでもなく、現に宇治市唯一の日刊新聞を出している今森本さんの御親父である元の国華新聞の故森本巖三氏、わたしも同氏は親しく二三度お訪ねを受けて能く知つて居るが明治四十四年十二月、田部龍淵編著の「宇治名勝誌」を出版公刊されて居る。同書の中に可なり詳細に紹介されているが、其後当の興聖寺を初め一向茶業家の間にも、其外一般有識者の間にもテンデ話題にものぼらず、全く忘れられてゐるのを残念に思つて、わたしは昨二十七年の春は曹洞禪興聖寺の開祖、道元禪師の七百年遠忌を機会に「曹洞禪と茶と茶道」の題下に小論文をものして府下唯一の日刊宗教新聞である中外日報に寄稿した。その中に可なり詳細にこの五つの茶亭のことを書いておいたが、今茲に好い機会だと思つて、再び簡単に紹介して、世の識者殊に

先づ廣い読者諸氏のためには興聖寺の由来から一言する必要がある。今から三百余年前慶長元年秋の地震で破壊したあの十三層塔を、修補再興した、淀の城主永井尚政は、又亡き兩親の追善回向のため、我國曹洞禪の開祖道元の入宗歸朝後の最初の寺は、今の深草の蓮宗宝塔の山内にあつて、寺の境内に、さすがに禪に歸依した尙政だけに、遺跡地の土地などに拘泥せず、二里余を離れた、勝れた景勝の地である宇治川を下に見え、石門の前河畔にあつた、観流亭などは、朝日山の麓を拓いて再興された寺で、あの石門を潜つて白亜の樓門が眞白に、ふりかえつて見れば、石門の額ぶちに限られた宇治

川の流れ、耳をすませば参道兩わの石壁を流れ下る、溪水の沈々たるいゆる琴坂の参道で、閑雅幽邃まことに天下稀れに見る、心憎いほどの結構なお寺だと、明治大正を通じて大文豪であり又兼ねて旅行家でもあつた故徳富芦花氏は口を極めて、彼一流の名文でほめをやして居る。

この景勝の地に更に景勝の地を特に選んで茶人の尙政は長川亭、洗心亭、望橋亭、縦目亭、観流亭と称する五ヶ所の茶亭を設けて、参詣の男女、往來の諸人にお茶を

時は心ある人々の注意を引いたものか、それらを詠じた漢詩も相当にあるが、漢文力の衰へた現代は猫に小判だから一切略するが、一寸注意せねばならぬことは、我國の煎茶趣味の普及發達の大きな感化影響を与へたお隣りの黄檗禪の開祖、隠元の書いた額や、同じく有名な木庵の書いた觀流亭の額など今に残つて、昔の存在を雄辯に物語つて居る計りでなく、これは尙政が茶人であつた上に、宇治が当時日本一の茶所であつた關係以外に、茶と禪との密接な關係即ち茶禪一味の風趣を広く世に發揚せんとしたものであろう。



現に江州彦根の藩士で、芭蕉門下の有名な、許六の句に「茶の花の香や冬枯れの興聖寺」や冬枯れの興聖寺各遺業の精神をより深く究明し、復興して價値あるものは現代的に復興して、大に広く茶の趣味の普及向上に利用活用、宣傳、殊に一般的煎茶趣味普及に力を致すことが当の茶人尙政の遺業に對する報恩的の、又佛教の積尊の合理的、科学的の教えを尊重することに、この方がより賢明な方策だと確信する。いろ／＼と直接間接茶に關係があつて注意するに足る貴重な資料も相当数あるが、長くなる恐れがあるから他日の機会にまかせて以上で一先づペンを置く (写真 興聖寺琴坂) 特別寄稿

川の流れ、耳をすませば参道兩わの石壁を流れ下る、溪水の沈々たるいゆる琴坂の参道で、閑雅幽邃まことに天下稀れに見る、心憎いほどの結構なお寺だと、明治大正を通じて大文豪であり又兼ねて旅行家でもあつた故徳富芦花氏は口を極めて、彼一流の名文でほめをやして居る。

この景勝の地に更に景勝の地を特に選んで茶人の尙政は長川亭、洗心亭、望橋亭、縦目亭、観流亭と称する五ヶ所の茶亭を設けて、参詣の男女、往來の諸人にお茶を

時は心ある人々の注意を引いたものか、それらを詠じた漢詩も相当にあるが、漢文力の衰へた現代は猫に小判だから一切略するが、一寸注意せねばならぬことは、我國の煎茶趣味の普及發達の大きな感化影響を与へたお隣りの黄檗禪の開祖、隠元の書いた額や、同じく有名な木庵の書いた觀流亭の額など今に残つて、昔の存在を雄辯に物語つて居る計りでなく、これは尙政が茶人であつた上に、宇治が当時日本一の茶所であつた關係以外に、茶と禪との密接な關係即ち茶禪一味の風趣を広く世に發揚せんとしたものであろう。